

遠き日の無常を想う。
 美しき静寂に

松浜軒

旧八代城主、松井家三代の直之が、生母崇芳院尼のために、お茶屋として粋を凝らして建てたのが、この松浜軒だ。

元禄元年(1688年)の建築で、当時は清流球磨川の流水を庭内に引き入れていた。また、築山のすぐうしろが八代海で、真白な砂浜に松林が続いていたということから、別名「浜の御茶屋」とも呼ばれた。

茶屋は吹上にあり、二層の閣が池に臨んで建てられ、本屋をかやぶき、下屋を柿ぶきにした美しい姿を池面に映している。

庭園には、ツツジ、山フジの花、かきつばた、肥後しょうぶ、水蓮、こうぼね、鬼蓮といった色とりどりの花が、四季を通じて咲き誇っている。

